

運動部活動の地域移行について チームヒアリングとりまとめ

経済戦略局スポーツ部

1. 実施時期

令和4年9月27日（火）～10月17日（月）

2. ヒアリング対象

大阪市と包括連携協定を締結しているスポーツチーム（7チーム）

- ・大阪エヴェッサ（バスケットボール）
- ・オリックスバファローズ（野球）
- ・セレッソ大阪（サッカー）
- ・JTマーヴェラス（バレーボール）
- ・サントリーサンバーズ（バレーボール）
- ・クボタスピアーズ（バレーボール） ※未実施
- ・NTTドコモレッドハリケーンズ（ラグビーフットボール）

3. 概要

部活動の地域移行を見据え、チームとして地域部活動に協力が可能なのか、どのような活動なら可能なのかなど、地域部活動にかかるチームの考えや意向、今後の参画・協力可否等について意見交換を行った。各チームとも、部活動の地域移行については大きな課題であるとの認識であった。

各項目にかかる意見等については、以下のとおり。

①指導者派遣について

- ・チームでアカデミーを持っているが、アカデミー以外に指導者を派遣できる人員を確保しているわけではない。
- ・指導者を派遣するには別途、雇用するなど人員の確保が必要。
- ・OBを紹介することは可。
- ・チーム・企業の看板を背負ってとなると課題が多く、困難である。
- ・社員を派遣するとなると労働時間、兼業禁止など課題がある。会社の制度が整っていない。
- ・セカンドキャリアとしては成り立たないのではないかと。会社として、現時点では考えていない。
- ・技術指導はできない。顧問と指導内容に違いがあると子どもが迷う。一貫したプログラムで指導するならよいが、一番の被害者が子どもになる可能性がある。
- ・年間の育成計画が必要（指導者によって違うと困る）。
- ・派遣される指導者と顧問が指導法について話をしないと難しい。
- ・スクールコーチは小学生対象に教えているので、中学生対象となるとレベルの幅が広くなり指導が難しい。

②活動形態・頻度について

- ・土日すべてに指導者を派遣するのは難しいが、シーズンオフや月に1～2回などスポット的に実施するなら対応可。
- ・年間を通じて定期的に実施するのは難しい。
- ・学校ごとに対応するには多大な労力、人員が必要である。

③その他意見

- ・大学生を活用するのがよいのではないか。教員をめざす学生が経験を積むことができる。
- ・部活動の延長として保護者は考えているだろう。
- ・技術向上を求めるのか、スポーツを楽しむことを求めるのか方針がわからない。
- ・チームの認知度をあげる意味でも、地域貢献としてもウエルカムであるが、今すぐ取り組める体制はない。
- ・他のホームタウンからも要望があり、すべてへの対応は難しい。
- ・会社のスタンスにより収益事業としてはできない。地域活動としてなら対応可。
- ・アンダー15のチームを持っているので、学校と連携して強くしたいと考えている。

4. まとめ

スポーツ庁からの提言や新聞報道等を注視しており、チーム・会社としても大きな課題であると認識されていた。しかしながら、現時点では定期的・継続的な対応は難しいとの意見が多かった。

- ・指導者派遣用の人員を確保していない。
- ・会社・チームとして地域部活動に参画するには、経費、期間、体制整備など多くの課題がありすぐに取り組める状況にはない。
- ・ビジネスとしては考えていない。
- ・24区全区に出向いてそれぞれの競技を実施するのは難しい。競技ごとに区を決めて実施するなど全体で調整すれば対応できる可能性はある。